

第3回教師みらいセミナーが開催されました！

令和7年度 第3回教師みらいセミナー

9月27日（土） 9:30～12:00 @宮崎大学ひなたキャンパス

◎内容

「教科における専門的な学び

～家庭科の衣生活から現代生活を考える～」

・宮崎大学教育学部 講師 藤本明弘

◎参加者数

会場参加 46名 オンライン参加 32名 計78名



今回のセミナーでは、まず、「家庭科」はどんな教科か参加者同士でイメージを出し合うことからスタートしました。「家庭科」というと、料理や裁縫、保育を思い浮かべる方も多いと思いますが、「家庭科は、単なる家事の技術ではなく、毎日の生活をより良くするために根拠に基づいて考え、選び取る力を育てる学び。そこには健康、環境、経済、人権といった現代社会の課題とのつながりが広がっています。」という説明がありました。

次に、家庭科の衣生活分野を専門とする「被服学」について紹介されました。衣服について、文化（社会制度や歴史）・素材（繊維のちがひ）・着方（快適さや安全性を科学的に分析）・管理（洗濯や保管方法）などすべてが研究対象であり、衣服は「個人の選択」にとどまらず、社会や環境との関係性を映し出す存在であることを話されました。

そして、藤本先生が取り組まれている、環境にやさしい生活を目指す最先端の研究について紹介されました。「酵素を使った新しい漂白剤の開発」「酵素を使い染色排水を短時間で浄化する研究」「電子レンジを活用した省エネ・省水の染色法」等を研究されていますが、これらの研究は、ただ技術を追求するだけでなく、「生活と環境を結びつけて考える視点」を生徒に伝える教材にもなっています。

最後に、ファストファッションが地球環境に与える影響（服1着の製造には、25kg以上のCO₂排出や2,000リットル以上の水消費が伴うこともあることなど）について学び、「ファストファッションの問題を解決するにはどうすればいいか?」「衣服を長く着るために、私たちは何を知る必要があるか?」をテーマにグループディスカッションが行われました。参加者同士が生活実感を交えて意見を出し合い、学びを自分ごととして深める時間となりました。

最後に、「教員にとって専門的な学びは、表面的な知識にとどまらず、子どもたちに『なぜそうなるのか』を伝える力となる」という話があり、学び続け専門性を深めることの重要性を実感できたセミナーとなりました。

受講者の感想より

- 教師という同じ夢を持った同級生と、教師になるために必要な知識を学び、たくさん意見を交換することで自分のなりたい教師像を深めることができた。普段は当たり前前に生活しているけど、衣食住にはたくさん解決すべき問題があることがわかった。
- 生活を科学的にみるということはすごく興味深いなと感じました。日常生活のなかにある、目に見えにくい環境への悪影響について考えることが出来ました。グループでの話し合いもあり、自分が考えていた衣服を長く着る方法とは全然違う方法を知ることが出来て楽しかったです。小学校の教師になりたいので、この学びをこれからの経験に生かしていきたいです。
- 衣服は毎日身につけてるものなのに環境との関わりは考えたことがありませんでした。これを機に何を知っておけばいいのか、どんな知識が役立つのか考えることが出来ました。今日学んだことを今後活かして服を買ったりしようと思います。また、専門的な知識を身につけて生徒に「なぜそうなるのか」をしっかり伝えられる教員になりたいです。